# 信濃川下流河川事務所の
# 令和7年度の主な事業について

国土交通省　北陸地方整備局
信濃川下流河川事務所

# ハード・ソフト一体の水災害対策「流域治水」への転換

信濃川下流河川事務所

○ 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で水災害に対応する「流域治水」へ転換します。
○ 河川、下水道、砂防、海岸等の管理者が主体となって行う治水対策に加え、水田、校庭、民間施設、国有地等も活用した雨水貯留等、府省庁・官民が連携したあらゆる対策の充実を図ります。

～流域治水への転換イメージ～

**従来の治水**

役割分担を明確にした対策

河川、下水道、砂防、海岸等の管理者主体のハード対策

河川区域等が中心の対策

河川区域やはん濫域において対策を実施

治水対策を転換

気候変動
社会動向の変化

「水防災意識社会」の再構築

**流域治水**

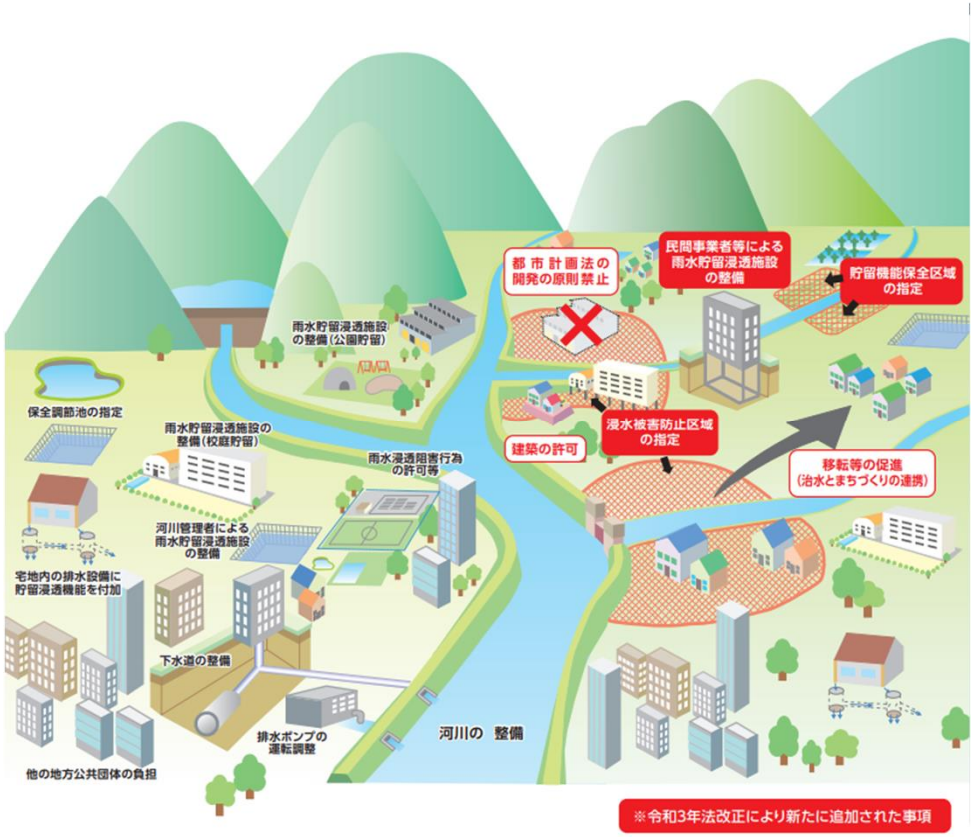
あらゆる関係者の協同による対策

国・都道府県・市町村、企業・住民など流域全体のあらゆる関係者による治水対策

あらゆる場所における対策

河川区域やはん濫域のみならず、集水域を含めた流域全体で対策を実施

防災・減災が主流となる社会




あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」

※集水域･･･雨や雪が地表を流れて川に流れ込む範囲。流域ともいう。
※遊水地･･･川に隣接した低地で、洪水を流入させ湛水するような土地。
洪水の一部を一時的に貯留して下流の水位を低下させる。

# 流域治水の加速化・深化

信濃川下流河川事務所

**【流域治水プロジェクト2.0】**

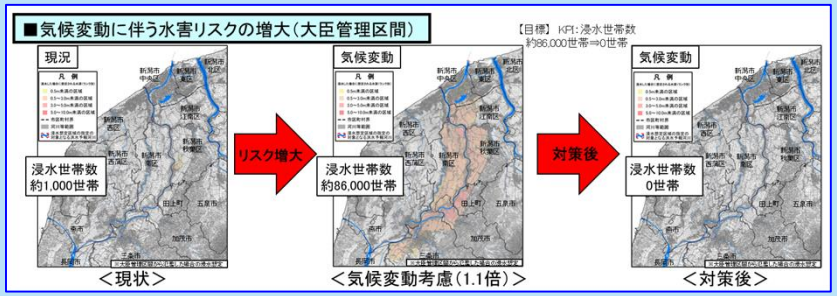
○　すでに公表している流域治水プロジェクトを、気候変動の影響により降雨量が増大した場合にも、流域の目標とする治水安全度を維持するために必要な取組として『流域治水プロジェクト2.0』 をまとめました。

**【流域治水の「自分事化」に向けた取組の推進】**

○　流域治水を推進するため、行政機関に加え、住民や民間企業などが自ら水害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動してもらうため、『「自分事化」に向けた取組』 をまとめました。

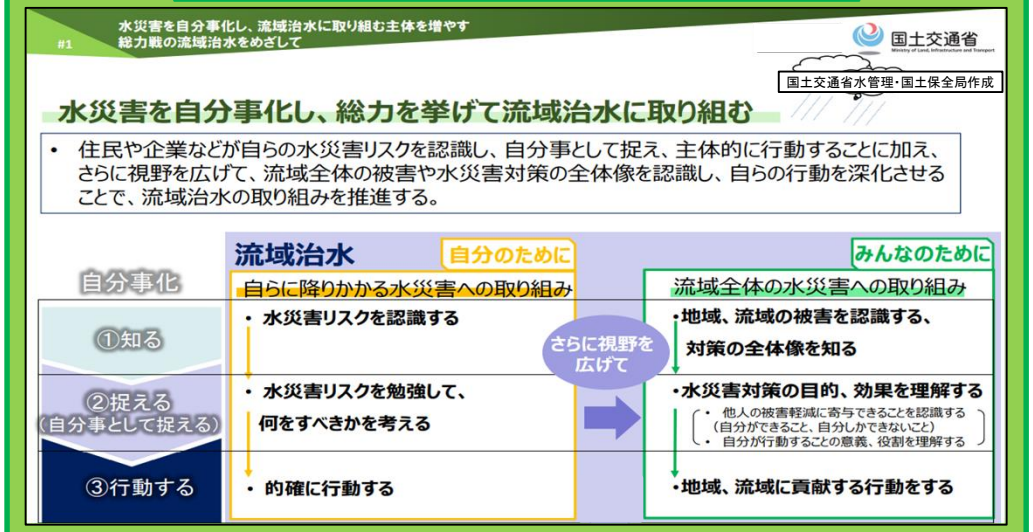
## 流域治水プロジェクト2.0

### ①気候変動に伴う水害リスクの増大を、氾濫シミュレーションにて確認 >>>想定される氾濫エリアが拡大

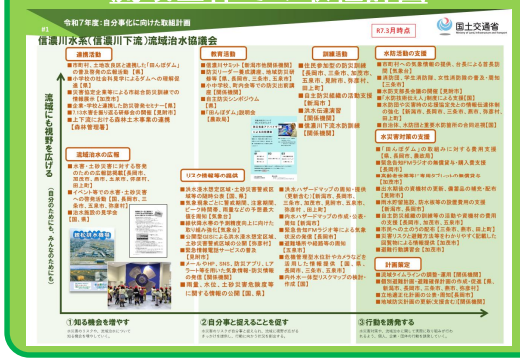



### ②気候変動に伴う水害リスクの増大を防ぐため、必要な取組

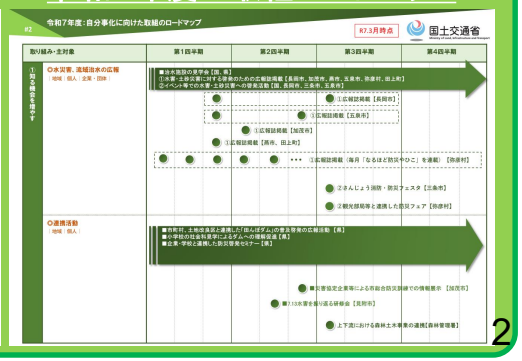
## 流域治水の「自分事化」に向けた取組の推進




### 流域全体での取組計画




### 令和7年度の取組ロードマップ



# 令和7年度　信濃川下流河川事務所　予算額

信濃川下流河川事務所

○　令和7年度の信濃川下流河川事務所の事業費は **約28億円** です。

（単位：百万円）

| 費目 | 令和６年<br>当初<br>① | 令和６年<br>補正 | 令和７年<br>当初<br>② | 伸率<br>②／① |
|---|---|---|---|---|
| **一般会計** | | | | |
| 河川整備事業費（河川） | 2,421 | 1,743 | 2,190 | |
| 河川改修費 | 830 | 1,305 | 814 | |
| 河川維持修繕費 | 1,591 | 358 | 1,376 | |
| 河川工作物関連応急対策費 | - | 80 | - | |
| 海岸事業費 | 635 | 646 | 615 | |
| 海岸保全施設整備事業費 | 635 | 646 | 615 | |
| 河川等災害関連事業費 | - | 33 | - | - |
| 河川等災害復旧費（河川） | - | - | - | - |
| 河川等災害復旧費（海岸） | - | 33 | - | - |
| **合計** | **3,056** | **2,422** | **2,805** | **0.92** |

※上記の他、受託工事費(附帯)及び工事諸費等がある。

※各合計値はそれぞれ百万円未満を四捨五入しているため、端数において一致しないものがある。

# 令和7年度　信濃川下流河川事務所の主要事業実施箇所

信濃川下流河川事務所

# 河道掘削の進捗状況

信濃川下流河川事務所

○ 平成23年7月新潟・福島豪雨で計画高水位を超過した区間の水位を低下させるための河道掘削は令和2年度までに完了しました。

○ 河川整備計画規模の洪水を安全に流下させるため、引き続き流下能力が低い区間から順次、河道掘削を実施しています。

| 工種 | 整備計画全体 | 掘削済（R6年度末） | 整備計画"残" |
|---|---|---|---|
| 河道掘削 | 470万m³ | 324万m³ | 146万m³ |

# 河道掘削の進捗状況（横場新田地区）【工事実施中】

信濃川下流河川事務所

○ 田上町横場新田地区において、加茂川等の支川合流部における洪水時の水位を低減し、洪水を安全に流すため、約69万m³の河道掘削を行っており、令和7年3月末現在で約4割まで進捗しています。

：掘削済み箇所　：一部掘削済み　：令和7年度掘削箇所　：全体掘削予定範囲

# 河道掘削の効果（事業連携、環境創出）

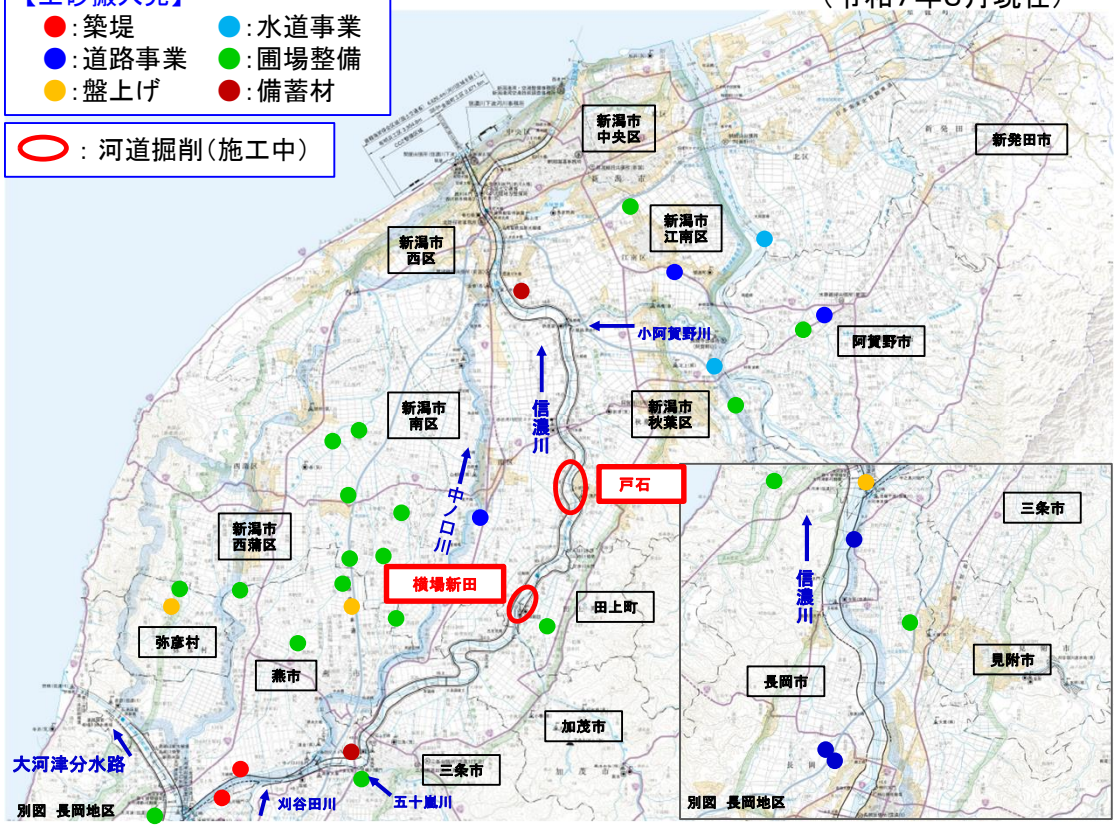
信濃川下流河川事務所

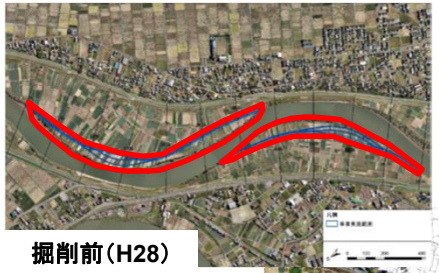
○掘削した土砂は、農地、圃場整備や道路等の盛土に活用しています。
○河道掘削とあわせて湿地環境を再生し、トキ・白鳥等の多様な生物が住める環境の創出に努めます。

【土砂搬入先】
- ●：築堤
- ●：水道事業
- ●：道路事業
- ●：圃場整備
- ●：盤上げ
- ●：備蓄材

○：河道掘削（施工中）

（令和7年3月現在）

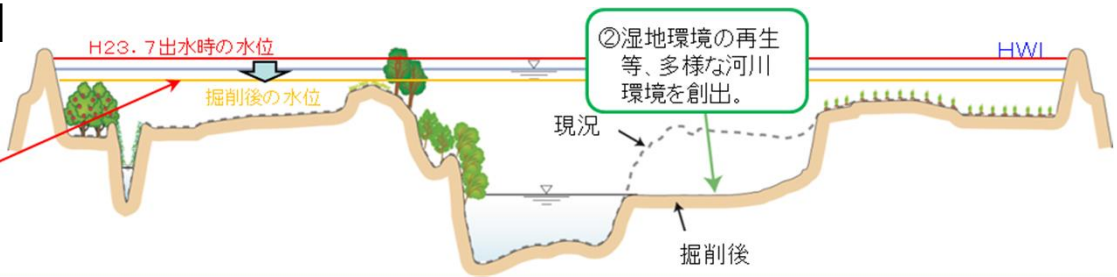




掘削前（H28）

掘削後（R3）

環境に配慮した施工箇所の工事後の状況（栗林・大島地区）

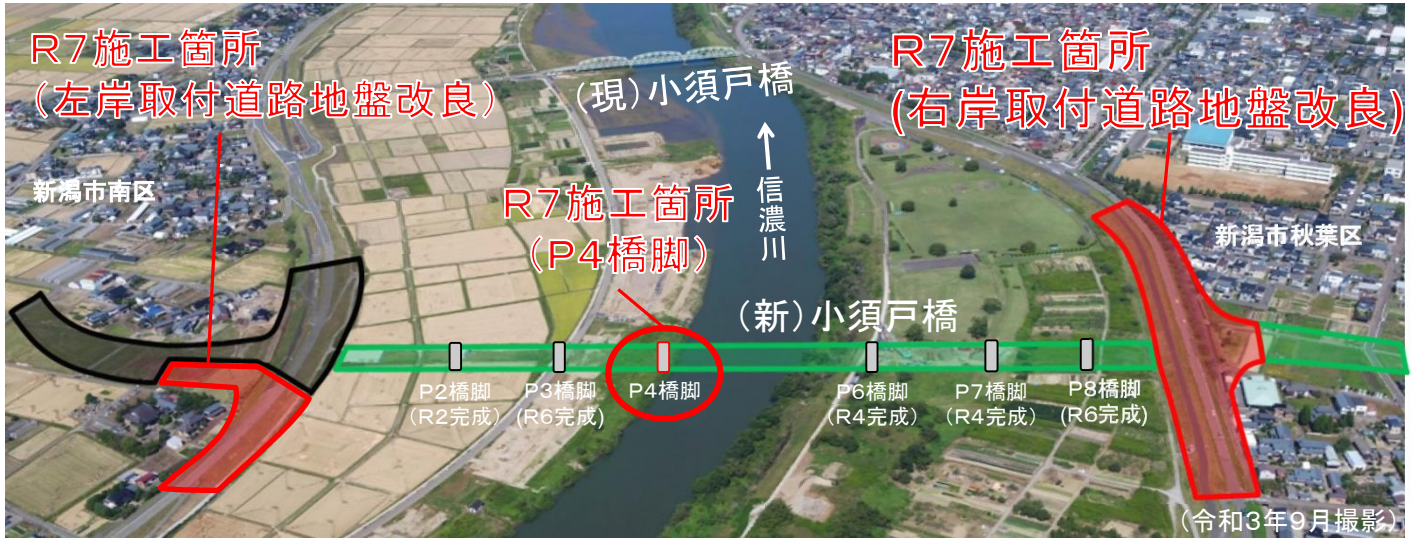
【河道掘削のコンセプト】



# 小須戸橋架替【工事実施中】

信濃川下流河川事務所

○ 現小須戸橋は、もぐり橋のため洪水の流下阻害となっており、また、右岸側取付部の堤防では、周辺の堤防と比べて高さが不足しています。
○ 道路管理者である新潟市との共同事業として、令和2年度に小須戸橋の架替事業に着手し、令和16年度完成を目指して進めています。
○ 令和7年度は、左岸及び右岸の取付道路地盤改良工事、P4橋脚工事を実施します。



平成23年7月新潟・福島豪雨時の状況（H23.7.30撮影）

水防活動により大型土のうを設置
（H23.7出水時）

水防活動により大型土のうを設置
（H23.7出水時）

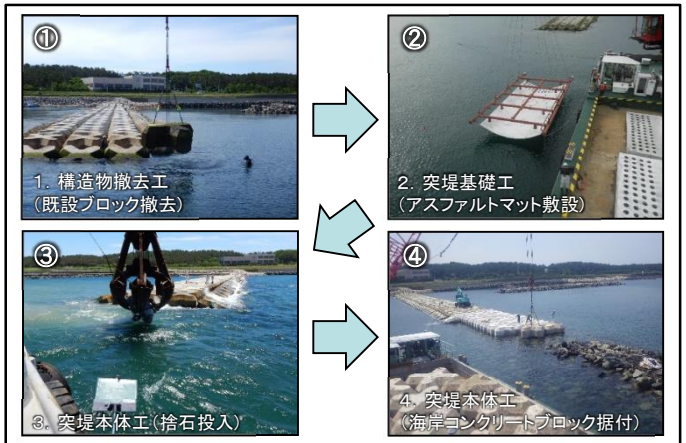
# 新潟海岸（金衛町工区） ヘッドランド整備 【工事実施中】

信濃川下流河川事務所

○ 海岸の侵食対策として、金衛町第１工区の第２号ヘッドランドを完成させ中央ヘッドランドに着手します。また、第２工区の砂浜を復元する養浜工事を進めています。これらの対策により、波の打ち上げ高さを低減させ、背後地の安全度を向上させます。

※ヘッドランドとは、T型または逆L型の人工岬

※人工リーフとは、人工的に造られた浅瀬




ヘッドランド施工順序

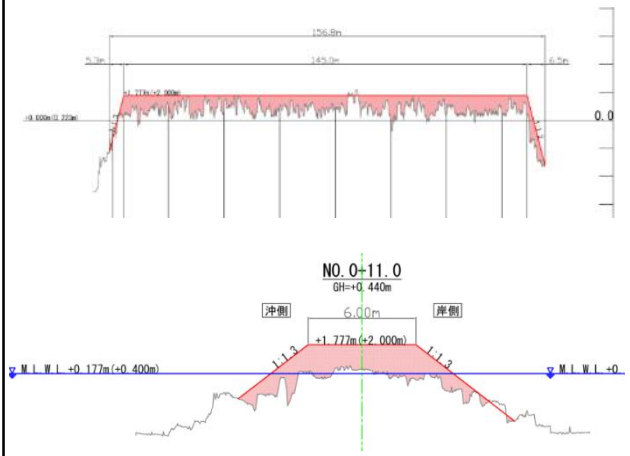
# 新潟海岸（有明浜工区） 離岸堤等の補修

信濃川下流河川事務所

○ 新潟海岸有明浜工区は、昭和52年度から直轄海岸として着手し、平成24年度に海岸保全施設（離岸堤、人工リーフ、緩傾斜護岸等）を完成させ、現在、モニタリング調査を行っています。
○ 完成後、十数年が経過し、沈下等の変状をきたしているため補修工事を実施しています。

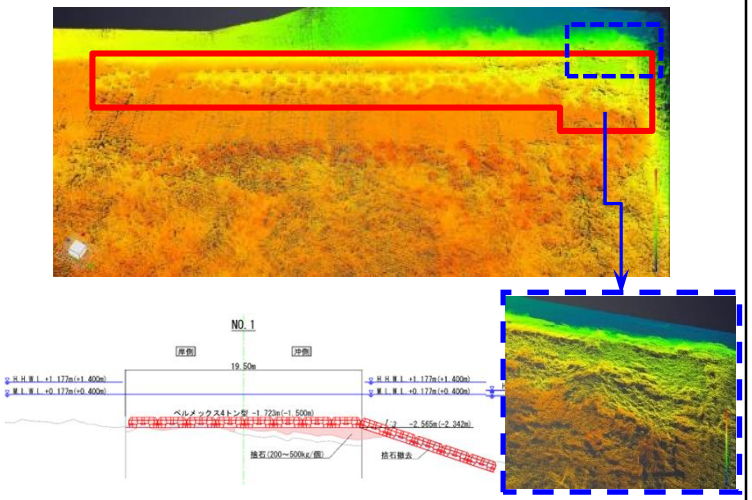
## 1．離岸堤　5基（D10,D16～19）

沈下等で高さが大きく不足した部分の嵩上げ



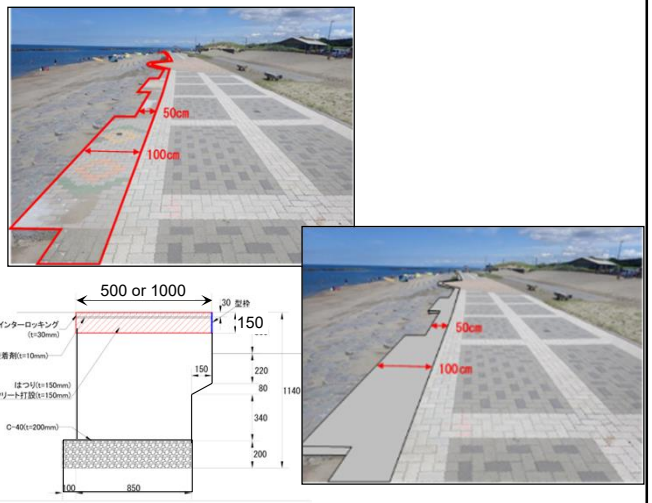

## 2．人工リーフ　1基（R13）

移動した被覆ブロックの再設置




## 3．緩傾斜護岸　1式

巻止コンクリートの打ち替え



# 大規模河川管理施設の維持補修

信濃川下流河川事務所

○ 信濃川下流には大規模な河川管理施設（堰、水門、排水機場）が多くあり、中には、完成後40年以上が経過し、老朽化が進行している施設もあります。
○ これらの施設が洪水時等に的確に機能を発揮するため、長寿命化計画に基づいて点検・補修を実施します。

## 堰・水門

塩害による腐食の影響がある部品の更新を行う。

新潟大堰主ゲート　ワイヤロープシーブの交換

ゲートの安全動作を確保するための修繕を行う。

中ノ口川水門調節ゲート　塗替塗装・主ローラ等の交換

## 排水機場

西川排水機場

鳥屋野潟排水機場

排水機場のポンプを点検し、必要な整備を行い出水に備えます。

# 堤防・護岸等河川管理施設の維持・補修

信濃川下流河川事務所

○ 河川管理施設の状況把握等を目的として、定期的な河川巡視・点検を実施します。
○ 堤防点検や河川の把握等のための除草を計画的に実施します。
○ 異常が発見された護岸・管理橋等の河川管理施設の補修を実施します。

## 河川管理施設の巡視・点検

河川巡視

施設点検

## 堤防の管理

堤防除草（ロングリーチ）

堤防除草（芝刈り機）

## 護岸等の補修

護岸の沈下

護岸補修作業

## 水門管理橋の補修

新潟大堰全景

閘門下流ゲート開閉機更新作業

## 河川管理についてもっと知りたい方は

河川維持管理等の取組みは「信濃川下流　河川管理レポート」で公表しています。
また、河川巡視で発見された不法投棄について、「ごみマップ」に取りまとめて公表しています。

詳細は信濃川下流河川事務所ホームページをご確認ください。

URL：**https://www.hrr.mlit.go.jp/shinage/index.html**

# 7．13水害20年プロジェクト

○ 令和6年で三条市、見附市などを中心に信濃川下流域に甚大な被害をもたらした**「平成16年7月新潟・福島豪雨」（7．13水害）**から20年を迎えました。

○ **「7．13水害20年プロジェクト」**として、信濃川下流域の関係機関と協力して、巡回パネル展、インフラバスツアー、シンポジウムなど地域防災力向上のための様々なイベントを実施しました。

## 7．13水害20年プロジェクト

### プロジェクト内容

**1．巡回パネル展（5月～11月）**
→7.13水害や防災に関する情報を紹介するパネルを信濃川下流域の公共施設や商業施設で巡回展示。

**2．防災キャンプ（6月）**
→市民が防災・減災について学べる体験型の学習活動を実施。

**3．マイタイムライン教室（6月）**
→実際に洪水が起きた時にどう行動するのかについて、学校教育を通じてマイタイムラインを作成。

**4．スタンプラリー（6月～10月）**
→7.13水害や治水、防災に関連する施設を巡り、水害・防災を学ぶスタンプラリーを実施。

**5．シンポジウム(8月)**
→7.13水害当時の状況を振り返りつつ、これからの防災について考えるシンポジウムを実施。

**6．インフラバスツアー（10月）**
→五十嵐川、刈谷田川周辺にて7.13水害の被災箇所や治水対策実施箇所、関連施設をバスで巡るツアーを実施。

### 実行委員会構成機関

見附市、三条市、新潟市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町
新潟県（土木部、三条地域振興局地域整備部、　長岡地域振興局地域整備部、新潟地域振興局地域整備部、新潟地域振興局新津地域整備部）、
信濃川下流河川事務所

1．巡回パネル展

2．防災キャンプ

3．マイタイムライン教室

4．スタンプラリー

5．シンポジウム

6．インフラバスツアー

## 広報の取組

ロゴマーク

特設ホームページ

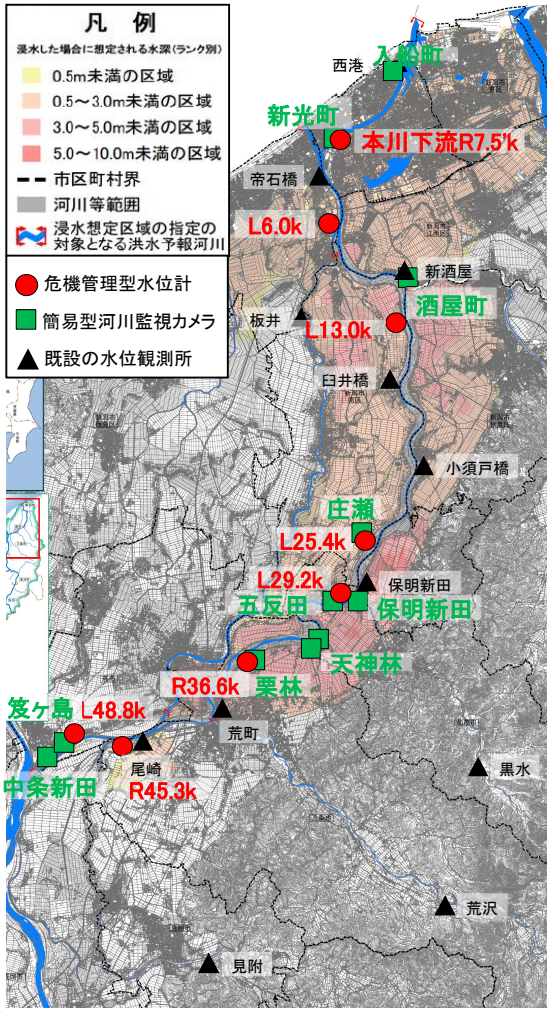
広報用チラシ

# 避難行動等の支援の取り組み

信濃川下流河川事務所

○川の状況をリアルタイムで把握できるよう『危機管理型水位計』『簡易型河川監視カメラ』を設置しています。
○水位情報やカメラの映像は『川の防災情報』でご覧いただけます。
○また防災学習などの支援として、職員によるマイ・タイムライン作成支援講習会や出前講座を実施しています。

## 観測機器等の設置箇所




## 川の防災情報（表示例：パソコン画面）

## 水防災教育等の取り組み

### マイ・タイムライン

・流域市町の住民を対象に、避難行動の一助とすべく、マイ・タイムライン作成支援講習会を実施しています。

マイ・タイムライン作成支援講習会 実施状況

マイ・タイムラインについての詳細は国土交通省ホームページをご覧ください。
https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/index.html

### 出前講座

・地域の小中学校や各種団体に対し、信濃川下流の河川や海岸に関する出前講座や総合学習の支援を実施しています。

# 水害リスク情報の充実（水害リスクマップの整備）

信濃川下流河川事務所

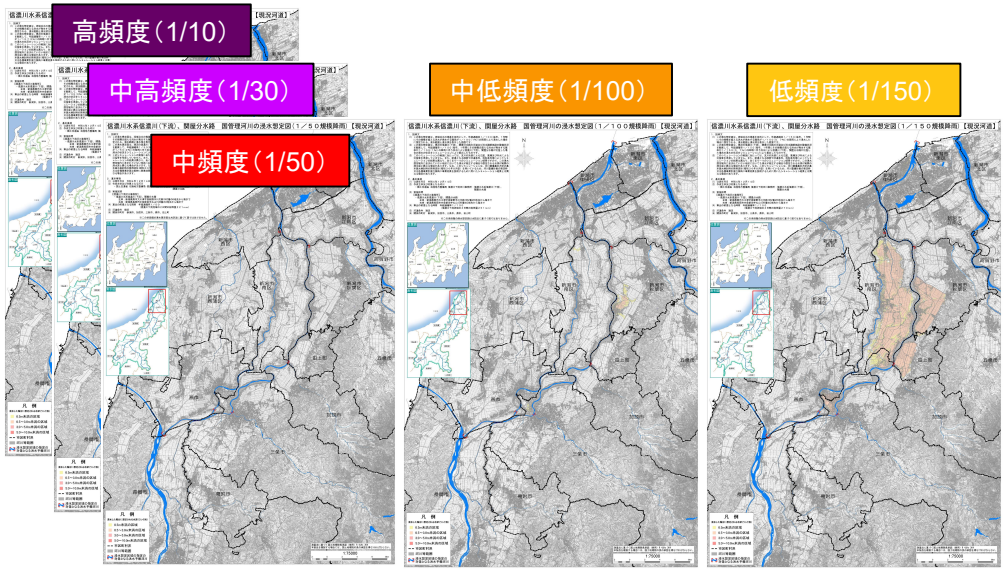
○従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進してきました。
○今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ（浸水頻度図）」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進していきます。

■目標
信濃川下流域における外水氾濫及び内水氾濫※を対象とした、「水害リスクマップ」及び「多段階の浸水想定図」を整備していきます。
※内水氾濫の対象範囲は国管理河川の氾濫域内

■当面の取り組み
国直轄の信濃川下流本川からの外水氾濫を対象とした、水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図をR4.12.14に公表をしました。
今後は、目標を達成するため、内水氾濫も考慮した水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図の整備を進めていきます。

## ■多段階の浸水想定図

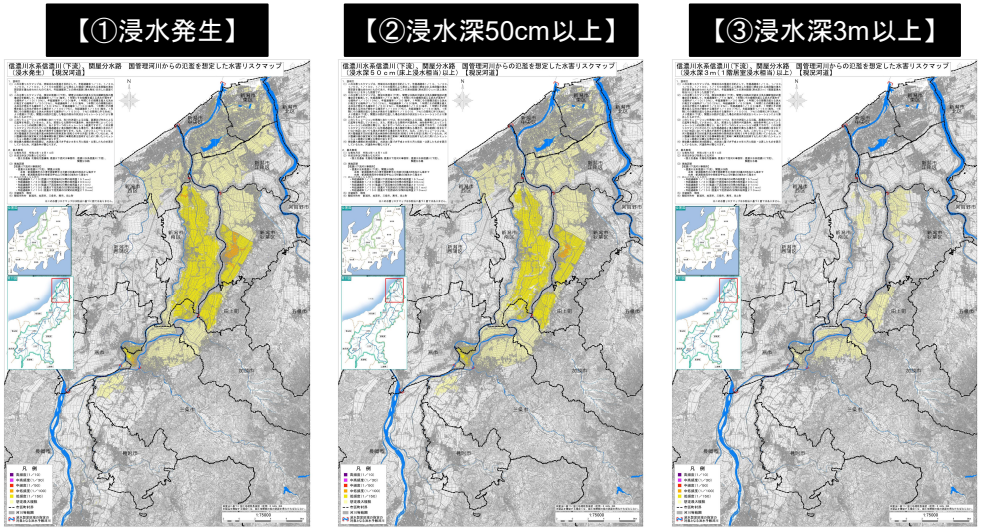
各整備段階において、降雨（流量）規模別に作成した浸水想定図
※整備段階：現況、短期、中期、中長期
※降雨規模別：1/10、1/30、1/50、1/100、1/150、想定最大規模




信濃川下流本川の外水氾濫を対象とした多段階の浸水想定図【現況河道】

## ■水害リスクマップ

浸水深別に、各整備段階において、降雨（流量）規模の浸水想定図を重ねあわせた図
※浸水深別：【①浸水発生】／【②浸水深50cm（床上浸水相当）以上】／【③浸水深3m（1階居室浸水相当）以上】




信濃川下流本川の外水氾濫を対象とした水害リスクマップ【現況河道】

# 関屋モリ上げ隊



○ 信濃川下流河川事務所の若手職員と、関屋出張所管内の工事または業務を担当する若手技術者により、「関屋モリ上げ隊」を結成し、官民の垣根を越え、「技術力向上」、「建設業PR」、「地域貢献活動」を目的として、様々な活動に取り組んでいます（平成29年度より毎年実施）。

## 技術力向上

北陸技術DXセンター見学

大河津分水現場見学

海岸工事現場見学

## 建設業PR

アルビレックス新潟レディース
コラボ出前授業

## 地域貢献活動

地域の小学生と花文字花壇づくり

信濃川クリーン作戦

## 活動のPR

・ X（エックス）

公式X(エックス)QRコード
@sekiyamoriage

・ 関屋分水資料館にてモリ上げ隊紹介

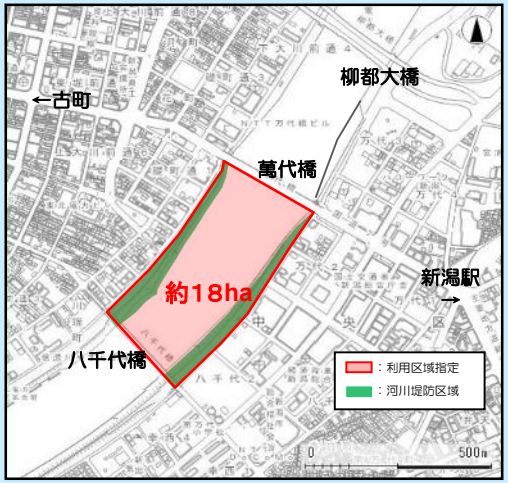
# ミズベリング信濃川やすらぎ堤

信濃川下流河川事務所

○「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」は、河川敷地占用許可準則の緩和措置を活用して、民間事業者による商業活動等と一体となって水辺に更なる賑わいを創出することで、川とまちが一体となった魅力的なまちづくりを推進し、観光振興や地域活性化に貢献しています。

○ 平成29年度からは、アウトドアメーカーが区域全体のマネジメントを担い、オープンカフェやBBQなどの飲食店等が出店しています（令和6年は6月22日（土）～9月23日（月）に開催）。

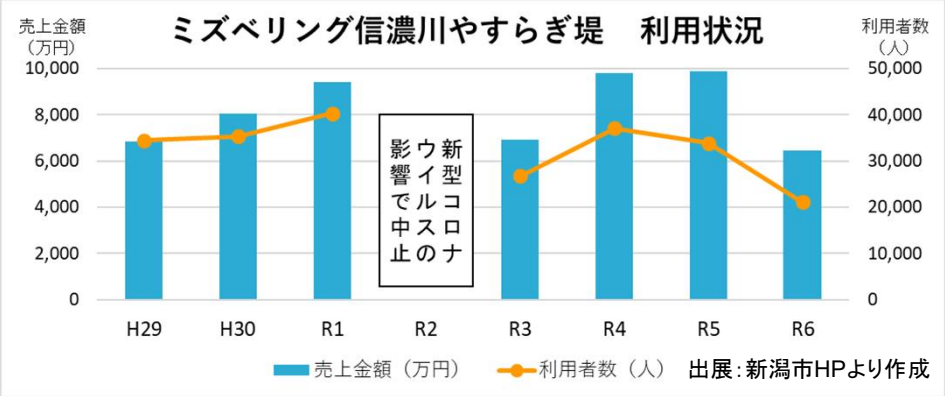
＜都市・地域再生等利用区域＞
萬代橋～八千代橋の水面を含む区域




平成28年2月に萬代橋から八千代橋の水面を含む区域が「都市・地域再生等利用区域」に指定、民間事業者による企業活動が可能。

| 店舗数 | R6 |
|---|---|
| | 右岸：6 |

■令和6年の実施状況




■令和6年ｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞｾﾚﾓﾆｰ（6/22）

# ミズベリング三条（三条MIZBEステーション）

信濃川下流河川事務所

○三条防災ステーションを含む河川緑地、水上を「ミズベリング三条」に指定。
○三条市で、バーベキューの炊事場や遊具、水遊び場などを整備し、普段から多くの方々が訪れ、賑わいを創出。
○令和５年３月３１日、地域活性化や賑わいの創出に寄与する河川防災ステーションとして「三条MIZBEステーション」に登録。

**＜都市・地域再生等利用区域＞**
**防災ステーション付近の河川緑地、水面を含む区域**

平成28年9月に三条防災ステーション付近の水面を含む区域が「都市・地域再生等利用区域」に指定、民間事業者による企業活動が可能。

■水辺空間の利活用

三条凧（イカ）合戦

無料キャンプサイト

イベント開催時

■MIZBEステーションへ登録

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

いのちとくらしをまもる
防災減災

令和５年３月３１日
水管理・国土保全局　治水課

「MIZBE ステーション」はじめました！

地域活性化や賑わいの創出に寄与する「MIZBE ステーション」の登録制度を新たに設け、この度、第１回の登録箇所として１１施設を選定しました。（新規整備２箇所、既存９箇所）
また、河川防災ステーションも４箇所登録しました。

○ MIZBE ステーション等の登録
➢ 新たに整備する河川防災ステーションのうち、市町村等と連携し地域の土地利用と一体となって、平時に多くの利活用が見込まれる２つの施設を MIZBE ステーションに登録し、来年度から整備に着手します。（新規整備施設）
➢ また、平時に多くの方々に利用され、地域活性化や地域の賑わいを創出している９箇所の施設を MIZBE ステーションとして登録しました。（既存施設）
➢ 加えて、４箇所の河川防災ステーションを登録し、来年度から整備に着手します。

（別添参照）

MIZBEステーションとは　別添

◆河川防災ステーションは、災害時に緊急復旧活動や水防活動を迅速に行うための拠点となる施設です。
◆河川防災ステーションの上面などを活用した平時における市町村等の取り組みにより、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーション（MIZBEステーション）として登録します。
◆災害時と平時両面の機能を併せ持つMIZBEステーションは、水防関係者や住民などあらゆる関係者に活用されることで「流域治水」推進の起点となり、また地域の賑わいの核として地域活性化を推進します。

《MIZBEステーションのポイント》
①滞在のしやすさ
・駐車場やトイレ、テーブル、ベンチ等の休憩施設などの施設が充実
②地域連携
・地域活性化、賑わいの創出に寄与するレクリエーション施設、地域振興施設、文化・教養施設、民間施設などが水防センターに併設または隣接
③アクセスのしやすさ
・幹線道路に面するなどアクセスしやすい立地環境

MIZBEステーションの登録イメージ
MIZBEステーションを拠点とした自然体験活動例
MIZBEステーションを拠点とした各種イベント実施例

■防災ステーション内の水防学習館

# 信濃川下流河川事務所

## X (旧Twitter)公式アカウント

防災情報や記者発表、日々の業務の様子などを発信しています。

## YouTube公式チャンネル

関屋分水の紹介動画や施策に関するセミナー開催の様子などを発信しています。

## 関屋分水資料館

関屋分水の歴史や役割をわかりやすくパネルなどで知ることができます。

- 所在地　　新潟市西区関屋1827-39
- 開館時間　4～10月（9:00～19:00）
  11～3月（9:00～16:30）